

令和元年6月26日現在

機関番号：34311

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02347

研究課題名(和文) 一九世紀インドのテキスタイル見本に関する研究 「手仕事」をめぐる

研究課題名(英文) A study on the Indian textile sample book on 19 century - over "handwork"

研究代表者

平光 睦子 (HIRAMITSU, Chikako)

同志社女子大学・生活科学部・教授

研究者番号：70278860

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ジョン・フォブス・ワトソンによるテキスタイル見本帳、『インドのテキスタイル製品コレクション』について、各機関所蔵の5組を対象に調査を行なった。現物の観察による調査の結果、収録されたインド産テキスタイルは全て手作業による最高品質のもので、生地の繊細さ、精巧さ、多様さにおいて、英国の機械製の見本として相応しいものだったことがわかった。また、文献調査の結果、見本帳の目的は主に以下の3点にあることがわかった。貿易博物館・英国とインドの業者間の取引を推進する製品カタログ、産業博物館・デザイン学校の学生が見本とするべき工業製品の事例、移動式博物館・インド博物館の所蔵品による巡回展。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果として、見本帳に収蔵された生地の構成、点数、品質、価格などを詳しく分析し実態に迫ったこと、制作時の詳しい状況や目的を調査し存在意義を明らかにしたこと、そして、制作後の活用事例を収集し効果や影響を実証したことなどが挙げられる。また、本研究で取り上げたテキスタイル見本帳を通して、19世紀英国では生産手段の機械化を契機に「手仕事」の意義が見直されつつあったことがわかった。本研究の成果によって、これまでその存在自体は知られていなかった『インドのテキスタイル製品コレクション』をデザイン史のなかに位置づけ、その価値や役割の一端を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：In this study, I had investigated about "Collection of the Textile Manufactures of India" by John Forbes Watson at 5 institutions in England. As the result of the investigation by the observation goods, it had realized that all the fabrics on the sample books, made by hands in India, had the best quality on that time and thought to be suitable for the samples to modify in machines in England. So as the result of documents investigation, it had realized that the sample books had made mostly for the 3 purposes as below. The trade museum/ The product catalog to facilitate the trades between England and India The Industrial museum/ The fine example products for the students of School of Design in England and India The mobile museum/A kind of the tour exhibition constructed of the holdings of India Museum

研究分野：デザイン史

キーワード：見本帳 テキスタイル 英国 インド デザイン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究で取り上げる、ジョン・フォブス・ワトソンによるテキスタイル見本帳『インドのテキスタイル製品コレクション Collection of the Textile Manufactures of India』(第1版 1866年、第2版 1873年)とその解説書『インドのテキスタイル産業と人々の服装』(1866年)は、英国産繊維製品の輸出先である、インド市場の調査と分析を目的に発刊された。見本帳は計700点の生地見本を掲載した18冊からなり、全部で20セット製作された。生地見本の全てが手仕事の成果で、解説書にはインドのテキスタイル製造方法や産地から、人々の衣服や服装まで後半かつ詳細に記されている。ワトソン自身は見本帳を「産業博物館」と的確に例えたように、国内外の博物館、デザイン学校、企業に配布され染織産業において知的資源として機能した。

2. 研究の目的

19世紀後期、諸産業の生産手段が手から機械へと移行しつつある中、手仕事により産品は機械製品に模倣する見本を提供し技術発展の方向性を示した。その一方で「手仕事」は、工芸や美術に関する思想、とりわけ機械によるものづくりに悲観的な思想において度々象徴的な役割を担っていた。本研究の目的は、特に染織産業における手仕事の衰退と照合しながら、工芸論及び産業美術論の見地から「手仕事」という価値観の成立と展開を追うことにある。手仕事衰退の顕著な事例として19世紀のインドのテキスタイル産業に注目し、ジョン・フォブス・ワトソンによるテキスタイル見本帳とその解説書を通して「手仕事」という価値観の生成と展開を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、主に、実物調査と文献調査を実施した。実物調査としては、各機関所蔵の5組のテキスタイル見本帳を対象に調査を行なった。文献調査としては、ジョン・フォブス・ワトソンの著述を中心に、資料を収集、読解した。

実物調査

【対象】

ジョン・フォブス・ワトソン制作のテキスタイル見本帳、『インドのテキスタイル製品コレクション Collection of the Textile Manufactures of India』第1版 1866年、第2版 1873年。

【実施】

ハリスミュージアム(プレストン) 第1版

ナショナル・アート・ライブラリー(ロンドン) 第2版

マックルズフィールド美術館 (マックルズフィールド) 第1版

ウィットワース・ギャラリー (マンチェスター) 第2版

ブラッドフォード大学テキスタイル・アーカイブ・ギャラリー (ブラッドフォード) 第1版 第2版

ナショナル・アート・ライブラリー (ロンドン) 第2版

文献調査

【主な一次資料】

Watson, John Forbes

"The people of India : a series of illustrations with descriptive letterpress, of the races and tribes of Hindustan" 1868-1875

"Memorandum by F.W on the extension of the knowledge of Indian manufactures and Indian art in decoration" 1870

"The Imperial Museum for India and the Colonies" 1876

"On the Growth of Cotton in India: its present state and future prospects with special reference to supplies to Britain" Journal of the Society of Art 1859

"On the Extension of Commerce between the United Kingdom and India, And on The Development of The Resources of Both Country by Means of Trade Museum" Journal of the Society of Art 1868

Watson, Amelia Forbes

"In memoriam Dr. John Forbes Watson" 1893

【主な二次資料】

Driver, Flix Ashmore, Sonia *"The Mobile Museum Collecting and Circulating India Textiles in Victorian Britain"* 2010

M. King, Brenda *"Silk and Empire"* 2009

4. 研究成果

現物の観察による調査の結果、収録されたインド産テキスタイルは全て手作業によるものと考えられ、生地の繊細さ、精巧さ、多様さにおいて、非常に高いレベルのものであったことがわかった。また、見本帳には、繊維や糸、組織を観察しやすくするための工夫や配慮が見られた。第1版には各見本の価格が記載されるなど、製造だけでなく、流通のための情報も記されていた。

文献調査の結果、見本帳を説明する際には、場面や目的によって以下の3語が用いられていたことがわかった。貿易博物館 Trade Museum・英国とインドの業者間の取引を推進する製品カタログ 産業博物館 Industrial Museum・デザイン学校の学生が見本とするべき工業製品の事例。移動式博物館 Mobile Museum・インド博物館の所蔵品による巡回展。この中で、とくに「手仕事」との関わりが深いのは の名称であるが、当初、フォブ

ス・ワトソンは を多用しており、機械製品の見本としての役割は二次的なものと考えていたと思われる。しかし「手仕事」に関してはその詳細に触れるような記述も多く見られることから、「手仕事」に一定の価値を見出していたとも考えられ、より高度な品質の製品に限定すれば将来的にも手工芸が生き残ると予想している。

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計1件)

「19世紀英国におけるインドのテキスタイル見本帳 - 『産業博物館』の視点から」

単 第61回意匠学会大会 2019年8月